

## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和5年1月11日

\*( )の数字は実数。利用者数24、回答数24 \*斜線欄は保護者アンケートに無い項目。事業所名:放課後等デイサービス ひみつきち

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	勉強、工作、運動遊び、クールダウン等、構造化したスペースで子供達の状況に合わせて訓練室を選択しています。	(はい 24)	構造化したスペースを活かして、子供達の成長過程に合わせ様々な運動・活動が継続できるように推奨していきます。
	2 職員の適切な配置	指定基準に応じ、適切に配置しています。長期休みには子供達と年代の近い学生アルバイトも受入れ、より充実した職員体制をとっています。	(はい 17、どちらとも 2、わからない 5)	人員配置については、年度始めの通信やホームページにて公表。今年は職員をより近く感じてもらえるよう、新年の通信にて各職員のメッセージも一緒に記載しています。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	玄関上り口には障害の特性に応じて使用できるように手すりがあり、活動スペースはバリアフリーで室内は特性や活動により構造化しています。	(はい 24)	それぞれの障害特性に応じた情報伝達を探りながら環境整備を行い、日々の生活を安心して過ごせるように努めていきます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	サービス営業開始前後に職員による清掃及び、コロナ感染予防対策のため各箇所の消毒を行っています。活動の終わりには子ども達の掃除時間を設けるなど、清潔な生活空間に加え、子ども達が来所を楽しみに出来る様に四季折々の装飾を取り入れています。	(はい 24)	今後も清潔を保ちながら、安心して過ごせる雰囲気作りと、ひみつきちが子ども達にとって自分を表現できる特別な場所となるように、職員間で意見を出し合い、子ども達に寄り添った施設作りを目指します。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員全員で、前日の振り返りを行った後、当日の利用者について前回の様子、保護者からの意見等情報共有を行っています。支援の仕方について、疑問や不安を一人で抱える事がないように確認し合い、一貫した関わりが持てるように検討する時間を設けています。PDCAサイクルは月間計画に基づきモニタリング会議を実施、職員の意見を擦り合わせ、目標を決定しています。	/	今後も職員間のコミュニケーションを大切に、支援に関してもより良いチームワークを目指します。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価は受けていませんが、他施設からの見学等は受入れをしています。	/	今後も広く受入れを行い、様々なご意見を運営に活かしていきたいと思えます。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	施設全体の目標や職員個々の目標設定を行い、外部の研修に参加したり、業務に必要な資格取得を目指すなどスキルアップに努め、動画を活用した研修も適宜行っています。	/	積極的に外部研修に参加することで職員個々のスキルアップを目指します。研修報告を兼ねて職員研修機会を設け情報共有する事により、統一したサービス提供が行え、サービスの質の向上に繋がります。
1	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	子供達と信頼関係を築き、自分を発揮してもらう事で、成長と共に変化するニーズの把握に努めています。保護者の方との連絡は主に連絡帳の活用と送迎時のご家庭や学校との直接対話を全職員が積極的に行い、些細な情報も共有、課題として書面で整理しています。	(はい 23、どちらとも 1)	普段の生活の中で知り得た情報や、ご本人、保護者の方の意向を基に、課題整理を行い、ニーズ課題分析を行い、放課後等デイサービス計画書の作成をしています。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別活動は、興味に合わせ知識や技能を伸ばす事を目指し、集団活動では自己表現力、折り合う力、想像する力、他者との関わり方などを身に着け、地域社会に於いて生活する、将来の姿を想像し自ら視野を広げていけるような計画を作成しています。		ひみつきちの特色を活かして、学校やご家庭、多年齢の友達や他地区のお友達との関わりなど、様々な体験を個々の計画に反映し活かしていけるようにします。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用頻度や個々の発達に応じて、優先順位を考えながら項目を設定。自らで一步踏み出して、自信が成長に繋がる内容にしたいと考えています。	(はい 21、どちらとも 1、わからない 2)	サービス計画を具体的に分かり易い内容にし、支援において、理解、協力していただけるものと出来るように、今後も必要な項目、支援内容を考えます。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援について必要な取組みは職員全員に周知し、一貫性を持って統一したサービス支援ができるようにしています。	(はい 23、わからない 1)	今後も支援に必要な情報や支援内容に変更がある場合には、その都度職員間で情報共有し、計画書の変更の有無に関わらず統一したサービス支援を行います。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	日々の活動や長期休みのプログラムは、子供達にとって実りある経験となるように職員全体で話し合い、常にメニューを計画立案し実行しています。		子供達の好みや特性を理解し、子供達が楽しみながら活動ができ、無理のない範囲で様々な経験を重ねられるように工夫していきます。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	現在、土日祝日の開所は行っていません。平日は学校終業後に受け入れをし、学校休業日や長期休みなどは一定のルールで受け入れを行っています。		利用者、職員にとっても家族で過ごす時間を確保する事が大切だと考えており、今後も休日の開所予定はありません。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	学期中には、振替休日や全員が早く帰って来られる日を中心に公園へ出かけたり、長期休みなどは外食、クッキング、工作といった取り組みを早目に計画を立て、子供達の意見を聞きながら企画しています。利用者が楽しく長期休みを迎えられるように常に新しいイベントを取り入れながら工夫しています。	(はい 20、どちらとも 2、わからない 2)	今後も、様々なイベントの企画や、利用者の流行りや望みを探りながら、他では経験ができないような、刺激的で心に残る活動ができるように取り組んでいきます。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前に、その日の予定や送迎の確認、また、前回利用時や日々の様子の確認など様々な事や小さな変化に気を付けながら、意見を出し合い最善の支援が行えるよう職員全員が支援前の利用者確認時間を大切にしています。		今後も職員全員が共通認識を持ち、チームワークを大切にしながら、1日の支援がより良く行えるようになっていきます。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後には、送迎と清掃、翌日の準備があるため、必要な情報は引継ぎノートに書き留めたり、翌日に情報共有できるような時間を設けています。職員間で話しやすい雰囲気作りも大切にしています。		今後も、職員間での情報共有時間を大切にしながら、引継ぎノートも活用する事で、利用者の支援に活かしていきます。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録に行った支援やその日の様子などを記録し、連絡帳へ差し込み保護者へ報告。その控えの記録を保存しています。また定期的に課題を整理し、計画の見直しに活用しています。		今後も継続して、必要に応じて記録、課題のまとめ、見直しを行っていきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	放課後等デイサービスサービス計画書の計画期間に基づき氷山モデルのブレインストーミング会議を行い、スタッフの意見を擦り合わせ見直しを行っています。		長期休み中にはまとまった会議時間が作りづらいので、期間中の変更がある場合は前月にブレインストーミング会議を行い、スタッフの意見を擦り合わせ見直しを行っています。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者が、会議予定に合わせて職員の見解を集約し、児童発達支援管理責任者が代表してその都度担当者会議へ参加するようにしています。		会議終了後、全職員へ会議内容報告を行い、情報共有し、日々の支援に活かしていきます。
	2 <b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在は、該当する利用者がありません。		該当する利用者さんの利用が始まった場合、利用者さんの利益を最優先に適切な機関と連携していきます。
	3 <b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在は、該当する利用者がありません。		該当する利用者さんの利用が始まった場合、利用者さんの利益を最優先に適切な機関と連携していきます。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	支援会議や送迎時の引継ぎの際、情報交換したり、必要な際には担当教員に直接連絡を行っています。		支援についてどのような連携ができるか考えながら、様々な情報を繋げられるようにしていきます。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	担当の相談支援事業所を通し、情報提供を行っています。		必要に応じて情報を、相談支援事業所に報告。セルフプランの場合もご希望に合わせて情報を提供します。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要があると判断する場合は、こども支援センター等専門機関と連携しています。研修は兵庫県からの案内に応じ、参加しています。		利用者さんの利益を最優先に適切な機関と連携していきます。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	学校がある期間は週に1回程度、公園で地域の子供達と交流できる機会があります。長期休みなどは、なるべく公園へ出かける機会を持ち交流を図っています。その他での交流が難しく、月に1回休日にひみつちの日を独自に設定し、各ご家庭で市内の公園に出かけてもらい、ひみつちの友達と地域で遊ぶ事を進めています。	(はい 5、どちらとも 4、 いいえ 1、わからない 14) ・あまり必要性を感じない。	通所している子供達が地域活動への参加や地域の中に出かける事が優先と考えており、健常児に限らずいろんな人と交流する事へのハードルを低くしていきたいと考えます。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所制作作品を、年に1回開催されるコミュニティセンターのイベントに出店や、毎月発行のお便りを区内に回覧して、事業所の周知に努めています。		開かれた事業所、地域との繋がりを目指し、職員で力を合わせて出来る事を行っていきたいと思います。



区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	ご利用にあたって了承を得られるように、事前に契約書、重要事項、サービス計画書の内容説明を行っています。	(はい 24)	理解していただいた上で活動していく為に、事前説明、確認を必ず行います。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画前に面談希望調査による面談意向確認し、面談を行い、現時点での評価、ニーズの把握と今後の方向性の確認をした後、計画を作成し、説明を行います。必要があれば訂正、加筆を行い、了承の上、サイン、押印いただいています。	(はい 21、わからない 3)	保護者の方との話しやすい関係性を築きながら信頼関係を構築し、支援について丁寧に分かりやすく説明する事を心掛けます。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	日頃のご家庭での様子などを伺ったり、ひみつきちでの違った姿や様子を伝えることで、お子さんに対しての視野を広げたり、違った視点から見ることで可能性を見出してもらるように助言しています。	(はい 15、どちらとも 2、いいえ 1、わからない 6)	お子さんの成長に繋がる情報や、可能性を広げられるような情報の提供を保護者の方に出来るように支援していきます。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	子供たち一人一人の特性を把握し日々の成長を確認しながら、日中の様子を連絡帳や送迎時にお伝えしたり、電話で連絡をさせていただいたりします。出来る限り多くの職員が共通理解の徹底が行えるように、ご家族と顔見知りとなり、お互い話しやすい間柄を築けるようにしています。	(はい 22、どちらとも 2)	日頃からを大切に考え、子供達の日々の成長を見守りながら、ご家族と子供達に寄り添って支援をしていきたいと思えます。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	ご相談は随時行っており、面談も希望に応じて実施しており、必要があれば助言を行っています。	(はい 23、どちらとも 1)	就労されているご家庭もあり、時間を取って話す事が難しくもあります。送迎時の会話を大切にするなど、日頃から話しやすい関係性を築く事が大切になってくると思えます。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	毎年、保護者会を開催していましたが、令和3年よりコロナウイルスの流行に伴い、感染拡大防止の観点から開催を見送っています。子供を通じて他の保護者の方と顔見知りになって頂きたく、独自にひみつきちの日を設定し、近くの公園にて繋がりを築けるように企画しました。	(はい 15、どちらとも 1、いいえ 1、わからない 7)	保護者会以外に、気軽に参加しやすい形で交流の場を設けることにより、保護者同士の情報交換の場が作れればと思えます。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	迅速に対応し、職員間でも周知を徹底しています。保護者全体にお知らせが必要な時には、通信やブログを活用してお伝えしています。	(はい 22、わからない 1、どちらとも 1)・苦情の相談をしたことはないが、対応はしてもらえるとと思う。	今後も新たな改善点、問題が発生した場合、迅速に対応し、その内容についても職員間で周知徹底し、必要に応じて保護者の方へお伝えしていきます。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	利用者には写真やイラストで情報を伝えたり、好みの遊びや事柄を通じて思いを引き出せるようにしています。保護者へは連絡帳やメール、LINEを活用して細目な連絡を取り合えるようにしています。	(はい 23、どちらとも 1)	様々な方法での意思疎通を図りながら、障害の特性に応じて、より良い意思疎通の方法を探っていきます。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	日々の活動の様子をブログに掲載したりしています。月1回発行の通信では子供達の様子、様々なお知らせを行ったり、長期休みなどの詳細な活動内容等も含めてお知らせしています。	(はい 24)	保護者の方に、子ども達の成長や日々の様子などの投稿を楽しみにしていただける様なブログ作りや通信の発行を行いながら、今後の行事予定などのお知らせについても、分かり易くお伝え出来るように工夫していきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	ブログ等への写真掲載については、保護者の方から承諾を得た上で、モザイクをかけるなどの取扱いに細心の注意を払っています。個人ファイルに関しては鍵付きのロッカーへ保管しています。	(はい 24)	今後も細心の注意を払い取り扱いを行います。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急対応の各マニュアルは、HPにて常時公開しています。職員に対しても、確認しやすいように活動室に掲示したり、送迎の車内にも設置して、緊急時すぐ目にできるようにしています。	(はい 19、いいえ 1、わからない 4)	緊急時マニュアル確認の願いを通信にて行い、いざという時にマニュアルの存在を思い出していただけのように、引き続き定期的にマニュアルの周知を行っていきます。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回、自主避難訓練を実施。春休みには消防署の立ち合いの元、自主避難訓練を行い、消火活動の模擬体験をし、冬休みには施設内で自主避難訓練を行っています。	(はい 18、いいえ 1、わからない 5)	今後も年2回の避難訓練を実施する他、職員間でマニュアルの確認、緊急避難時の通路確認、消火設備の使用方法等の確認を行います。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	現在、虐待防止についての研修は設けていませんが、悩みを一人で抱える事がないようサービス提供開始前のミーティングで支援について話し合いの場を設けています。また、個別で話を聞くなどの対応も行っています。		職員が穏やかな気持ちで利用者に関われるように人員の確保や、職員間のコミュニケーションを大切に、ゆとりのあるスケジュールを考えます。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束が必要になる利用者は現在ありません。		身体拘束が必要になる状況が発生すると考えられる場合、職員間で十分な協議を行い、適宜利用者本人や保護者の方へ十分な説明と納得をいただいた上でサービス計画に加え、必要な事項の記録をします。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギーの有無などの詳細を個別支援シートで管理、職員間で定期的に情報共有確認をしています。		クッキングでいろいろな食材を調理したり、外食もあるので、アレルギーのある利用者に配慮しながらメニュー選択や事前に外食で食べるメニューの精査をします。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例が生じた場合は報告書を作成し、職員間で情報共有を行い、ミーティングなどで対策の検討、再発防止に努めています。		今後もヒヤリハットの事例が発生した際には、改善策や再発防止策を職員全員で話し合い、事故が起こらないようにします。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか	子供達1人1人が自分を発揮できる場所となり、ひみつきちが楽しい！行きたい！という気持ちになってくれる事を一番に目指しています。行きたい、誰かに会いたいと思える気持ちが充実した活動時間に繋がればと思います。	(はい 24)	少しでも沢山のお友達と楽しく様々な体験をできるように、職員で話し合い力を合わせ、サポートを行っていきます。
	2 事業所の支援に満足しているか	自分を発揮できる居場所というだけでなく、少しでも子供達の将来の可能性が広がられるように、今何が必要かを考え、楽しみが持てるような支援をしています。	(はい 24)	今後も、ひみつきちの考えや支援に満足していただけるように、ご家族の方にご理解、ご協力を頂けるように努めていきます。